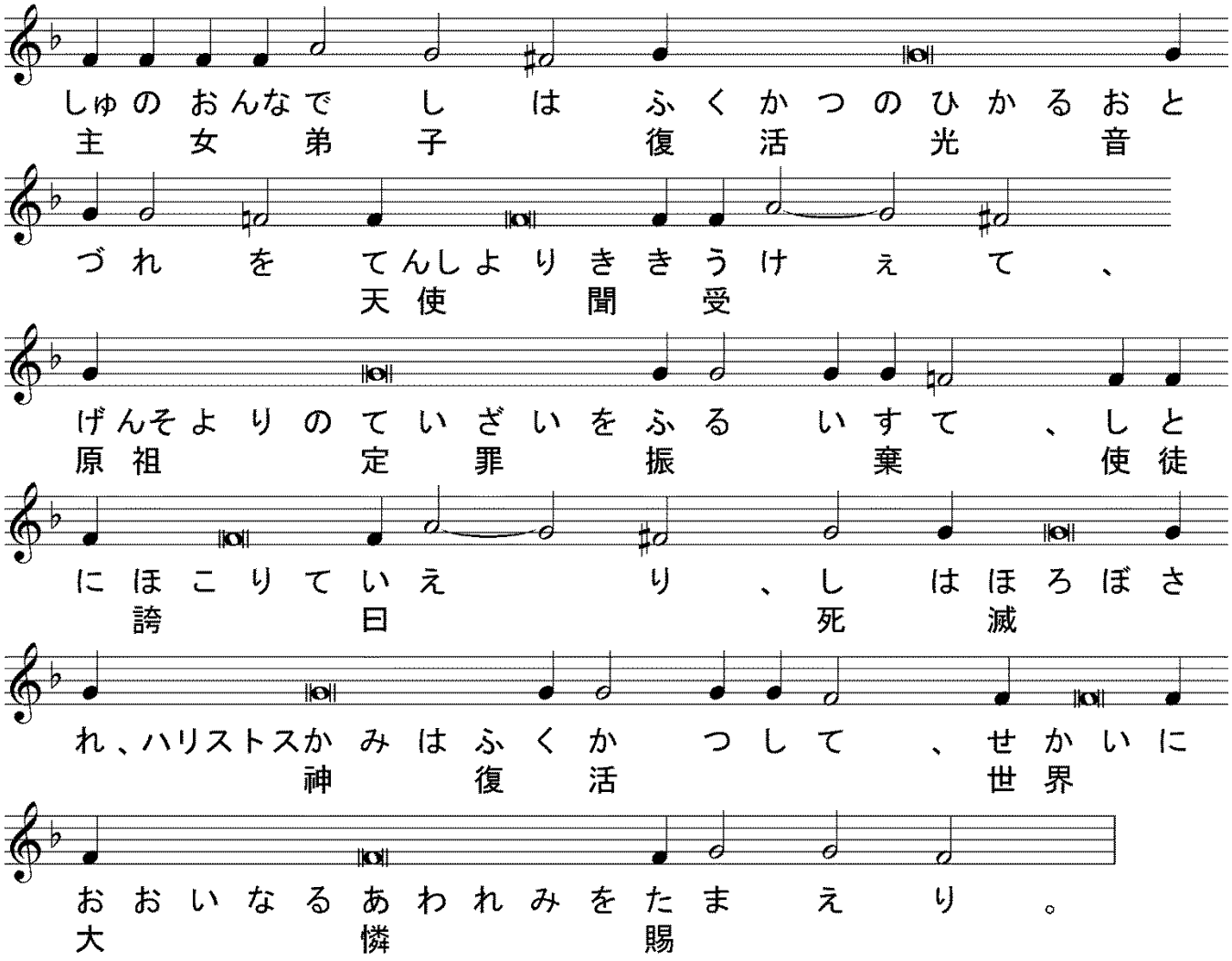
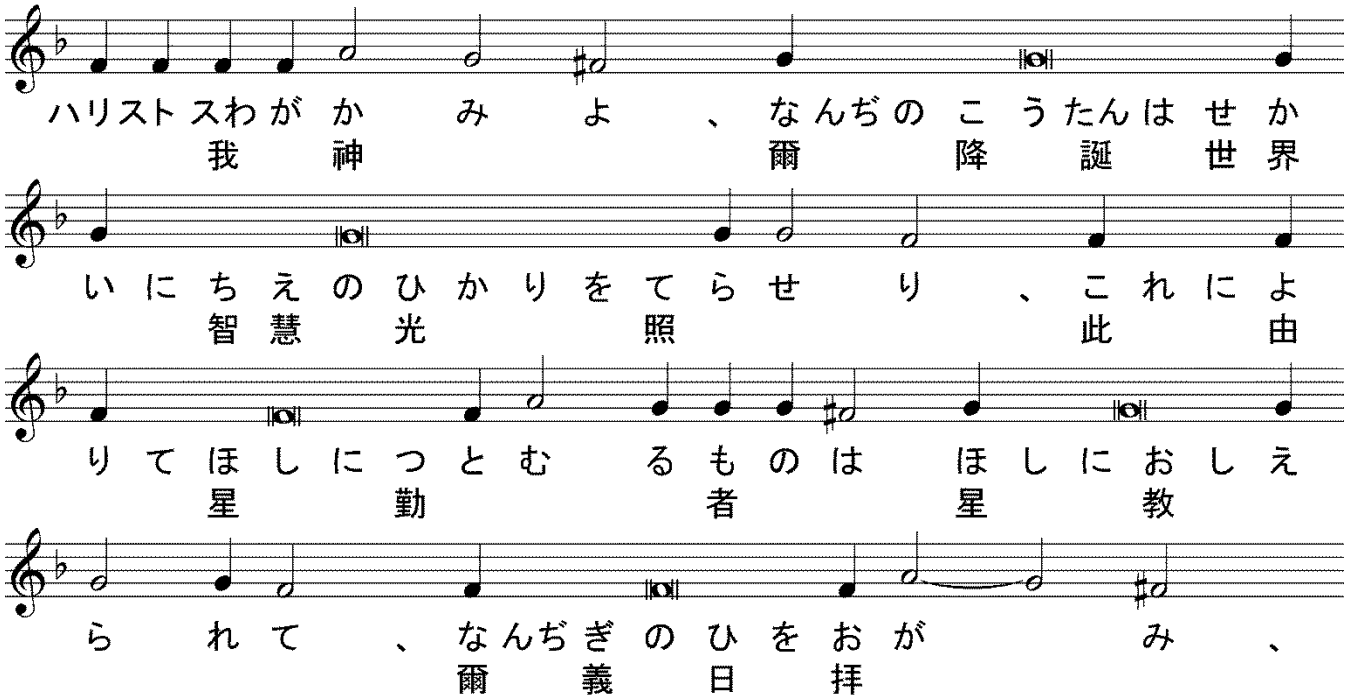
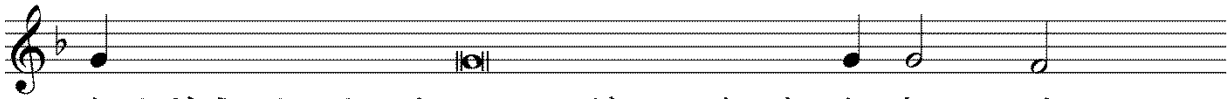
【　復活讃詞　第４調　】

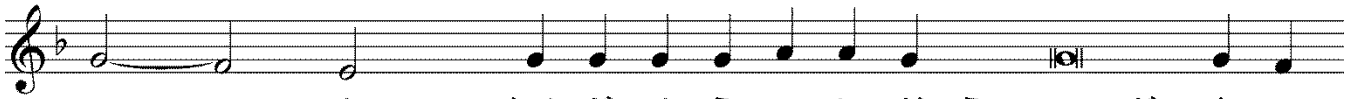


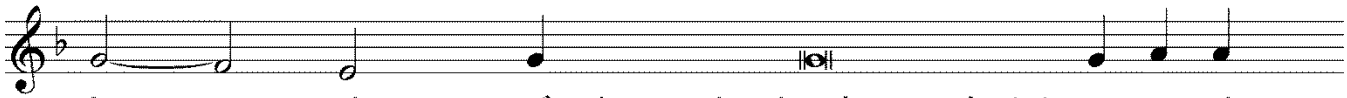
【　降誕祭のアポリティキオン　第４調　】

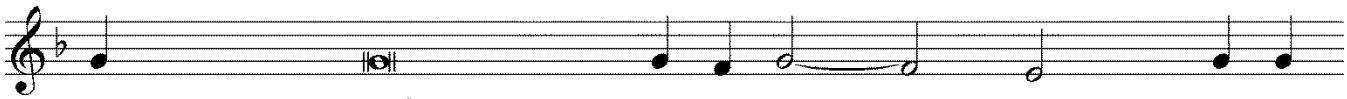


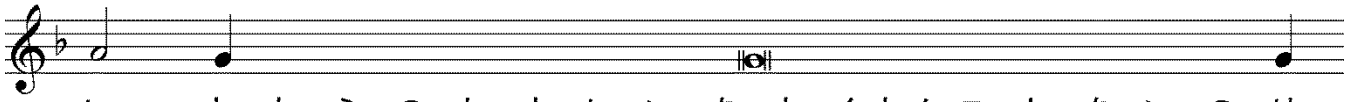


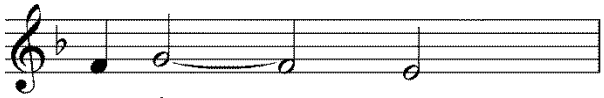
【　聖人等のアポリティキオン　第２調　】



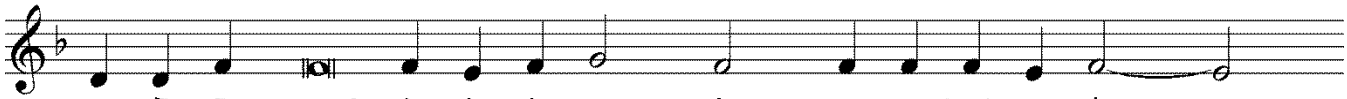


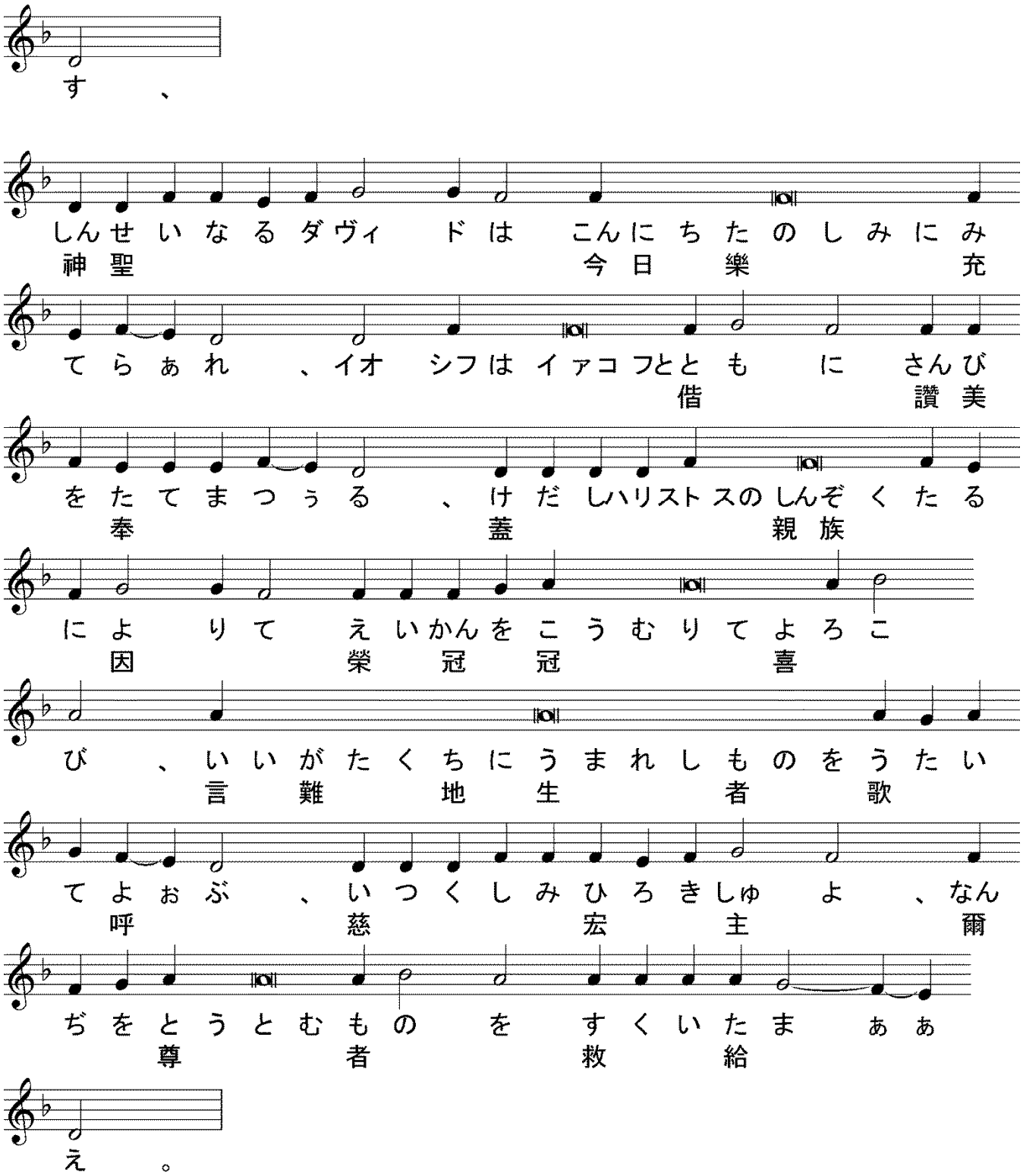




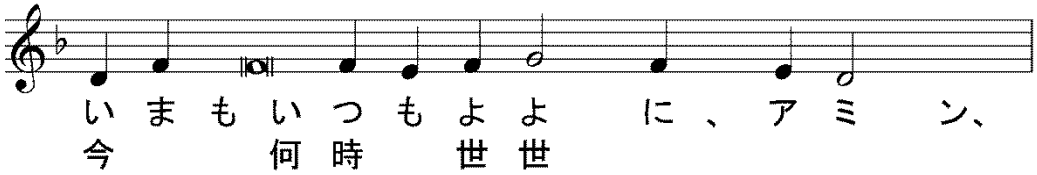


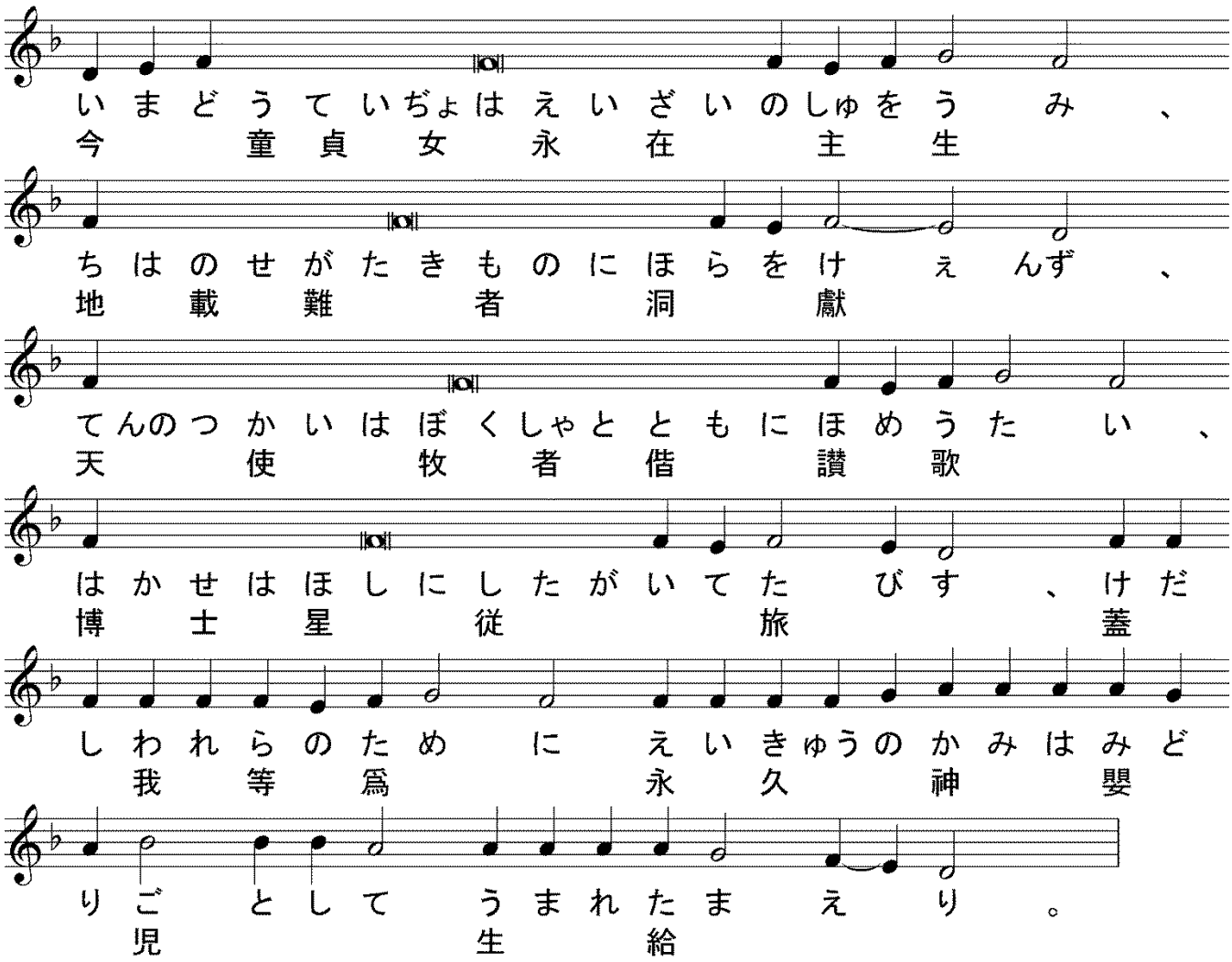
【　聖人等のコンダキオン　第３調　】





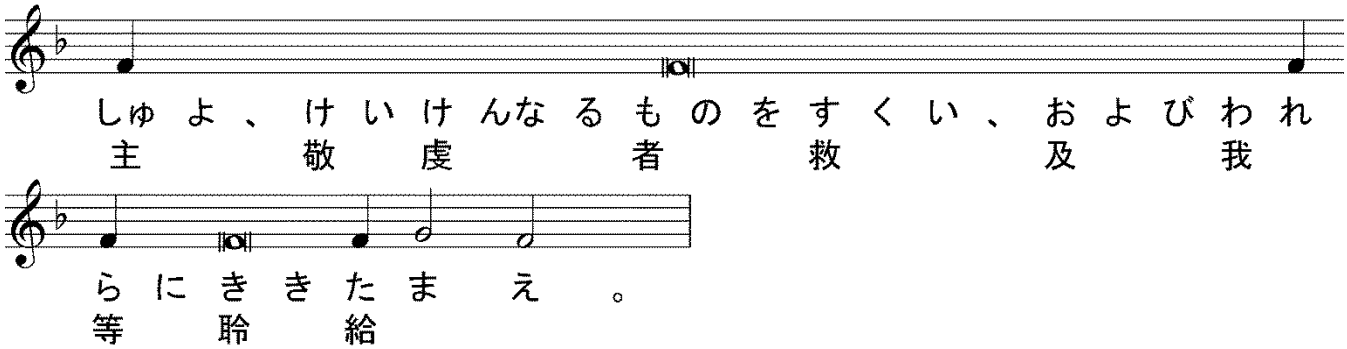
【　降誕祭のコンダキオン　第３調　】



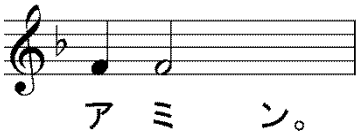


【　聖三の歌　】

代禱）主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聆き給え、



代禱）世世に、



せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖　神　聖　勇　毅　聖

じょうせいのものよ、われらをあわれめ
常　生　者　我　等　憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖　神　聖　勇　毅　聖

なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
常　生　者　我　等　憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖　神　聖　勇　毅

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖　常　生　者　我　等　憐

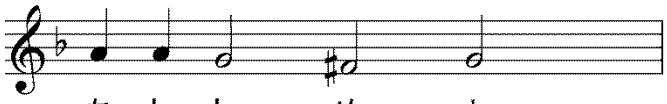
れめよ。こうえいはちちとことせいしん
光　榮　父　子　聖　神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸　今　何　時　世　世

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖　常　生　者　我　等　憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
聖　神　聖　勇

き、せいなるじょうせいのものよ、われらを
毅　聖　常　生　者　我　等

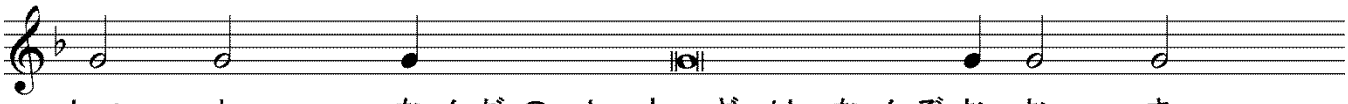


あ わ れ め よ 。
憐

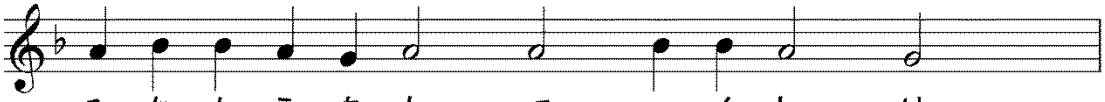
【 提綱（プロキメン）主日第４調及び聖人等の第４調 】

代禱）睿智、

誦經）プロキメン、主よ、爾の工業は何ぞ多き、皆智慧を以て作れり、

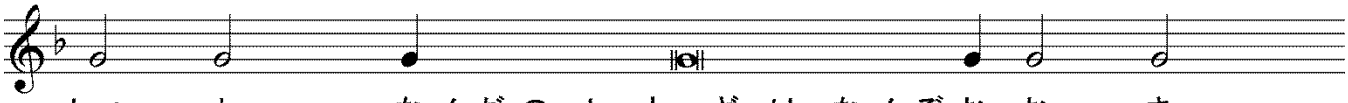


しゅ よ 、 なんぢ の し わ ざ は なんぞ お お き 、
主 爾 工 業 何 大

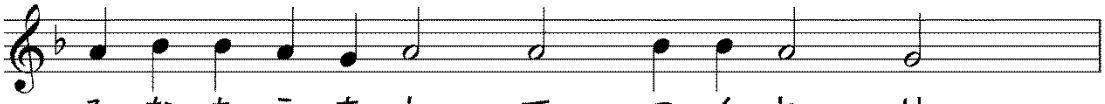


み な ち え を も って つ く れ り 。
皆 智 慧 以 作

誦經）我が霊よ、主を讃め揚げよ、主我が神よ、爾は至りて大なり、

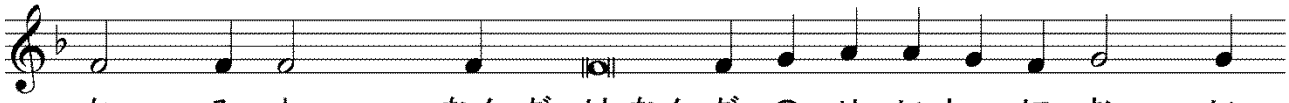


しゅ よ 、 なんぢ の し わ ざ は なんぞ お お き 、
主 爾 工 業 何 大

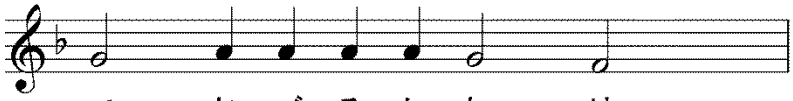


み な ち え を も って つ く れ り 。
皆 智 慧 以 作

誦經）神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり、



か み よ 、 なんぢ は なんぢ の せ いしょ に お い
神 爾 爾 聖 所 於



て お ご そ か な り 。
嚴

【 使徒經（アポストロス）200端 ガラティヤ書1章11節～19節 】

代禱）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがガラティヤ人に達する書の讀、

代禱）謹みて聽くべし、

誦經）兄弟よ、我爾等に告ぐ、我が傳えし福音は人に由るに非ず。蓋我人より之を受け、之を學びしに非ず、乃イイスス ハリストスの黙示に由るなり。爾等は我が先にイゥデヤ教に在りし時に行いし所を聞けり、即我甚しく神の教會を窘逐し、之を殘害し、且イゥデヤ教に進歩して、我が同族の中の年相若しき多くの人に越え、極めて先祖の遺傳に熱中せり。然れども我が母の胎より我を簡びて、其恩寵を以て我を召しし神が、悦びて、其子を我が内に顯し、我をして之を異邦人に福音せしめんとせし時、我直に血肉と相謀らず、亦イェルサリムに上りて我より先に使徒と爲りし者を見ず、乃アラヴィヤに往き、後亦ダマスクに返れり。嗣ぎて三年を越えて、ペトルを見ん爲にイェルサリムに上り、十五日間彼と偕に居たり。他の使徒は、主の兄弟イァコフの外、誰をも見ざりき。

＊＊

（比較用　口語訳）兄弟たちよ。あなたがたに、はっきり言っておく。わたしが宣べ伝えた福音は人間によるものではない。 わたしは、それを人間から受けたのでも教えられたのでもなく、ただイエス・キリストの啓示によったのである。 ユダヤ教を信じていたころのわたしの行動については、あなたがたはすでによく聞いている。すなわち、わたしは激しく神の教会を迫害し、また荒しまわっていた。 そして、同国人の中でわたしと同年輩の多くの者にまさってユダヤ教に精進し、先祖たちの言伝えに対して、だれよりもはるかに熱心であった。 ところが、母の胎内にある時からわたしを聖別し、み恵みをもってわたしをお召しになったかたが、 異邦人の間に宣べ伝えさせるために、御子をわたしの内に啓示して下さった時、わたしは直ちに、血肉に相談もせず、 また先輩の使徒たちに会うためにエルサレムにも上らず、アラビヤに出て行った。それから再びダマスコに帰った。その後三年たってから、わたしはケパをたずねてエルサレムに上り、彼のもとに十五日間、滞在した。しかし、主の兄弟ヤコブ以外には、ほかのどの使徒にも会わなかった。

＊＊

【　使徒經（アポストロス）233 端　エフェス書 6 章 10 節～17 節　】

代禱）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがエフェス人に達する書の讀、

代禱）謹みて聽くべし、

誦經）兄弟よ、主及び其權の力に頼りて堅固になれ。神の全備の武具を衣よ、爾等が惡魔の奸計を禦ぐを得ん爲なり、蓋我等の戰は血肉に於てするに非ず、乃首領に於てし、權柄に於てし、此の世の暗昧の世君に於てし、天空に在る凶惡の諸神に於てするなり。此に因りて神の全備の武具を取れ、惡しき日に於て禦を爲し、凡の事を成就して、立つを得ん爲なり。故に立ちて、眞實を爾等の腰に束ね、義の甲を衣、和平を福音する預備を以て足に履はき、更に信の盾を執れ、之を以て惡敵の悉くの火箭を滅すを得ん、又救の冑、及び神の劍、即神の言を取れ。

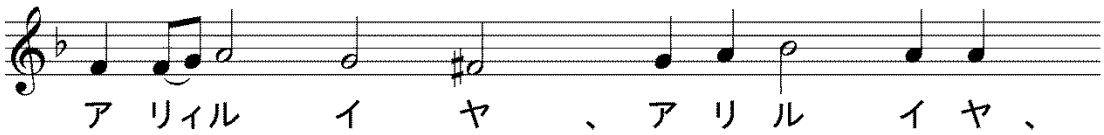
＊＊

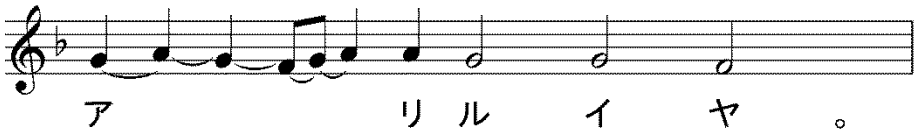
（比較用　口語訳）兄弟たちよ、主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当を胸につけ、平和の福音の備えを足にはき、その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。

＊＊

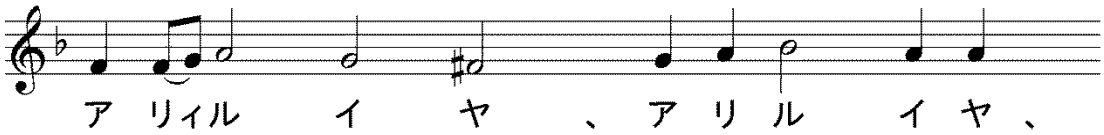
【　アリルイヤ　主日第４調及び聖人等の第４調　】

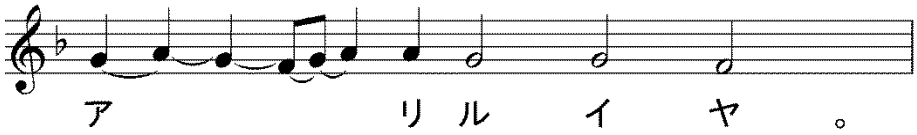
代禱）睿智、



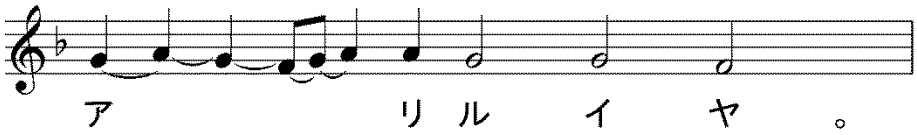


誦經）神よ、爾の寶座は世世に在り、爾の國の權柄は正直の權柄なり、





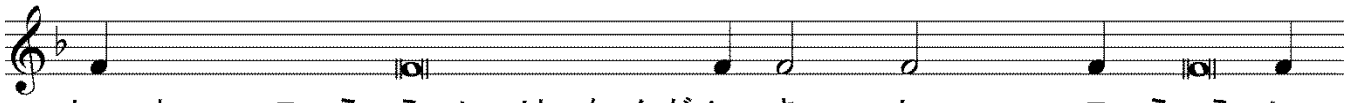
誦經） 爾(なんぢ)は義(ぎ)を愛(あい)し、不法(ふほう)を惡(にく)めり、

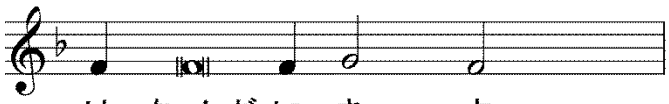


【 福音經（エヴァンゲリオン） マトフェイ福音書４端 ２章13～23節 】

代禱）睿智(えいち)

誦經）マトフェイ傳(でん)の聖(せい)福(ふく)音(いん)經(けい)の讀(よみ)、





代禱）謹(つつし)みて聽(き)くべし、

誦經）博士(はかせ)の歸(かえ)りし後(のち)、視(み)よ、主(しゅ)の使夢(つかいゆめ)にイオシフに現(あらわ)れて曰(いわ)く、起(お)きて、嬰兒(おさなご)と其母(そのはは)とを攜(たづさ)えて、エギペトに奔(はし)り、彼處(かしこ)に在(あ)りて、我(わ)が爾(なんぢ)に告(つ)ぐるを待(ま)て、蓋(けだし)イロドは嬰兒(おさなご)を索(もと)めて、之(これ)を殺(ころ)さんと謀(はか)る。彼(かれ)起(お)きて、夜間(やかん)嬰兒(おさなご)と其母(そのはは)とを攜(たづさ)えて、エギペトに往(ゆ)き、彼處(かしこ)に在(あ)りて、イロドの死(し)するに至(いた)れり。是(こ)れ主(しゅ)が預言者(よげんしゃ)を以(もつ)て言(い)いし所(ところ)に應(かな)うを致(いた)す、云(いわ)く、我吾(われわ)が子(こ)を召(め)してエギペトより出(いだ)せりと。當時(そのとき)イロドは己(おのれ)が博士(はかせ)に欺(あざむ)かれたるを見(み)て、大(おおい)に怒(いか)り、人(ひと)を遣(つかわ)して曾(かつ)て詳(つまびらか)に博士(はかせ)に問(と)いし時(とき)を按(はか)り、ヴィフレエム及(およ)び其四(そのよも)の境(さかい)の内(うち)なる二歳(にさい)以下(いか)の嬰兒(おさなご)を盡(ことごと)く殺(ころ)せり。是(こ)に於(おい)て預言者(よげんしゃ)イェレミヤの言(い)いし事(ことかな)應(かな)えり、云(いわ)く、ラマに悲(かなし)み哭(な)き甚(はなはだ)しく號(さけ)ぶ聲(こえ)は聞(きこ)ゆ、ラケリは其子(そのこ)の爲(ため)に哭(な)き

て、慰むるを欲せず、子の無きが故なりと。イロドの死せし後、視よ、主の使エギペトに於て夢にイオシフに現れて曰く、起きて、嬰兒と其母とを攜えて、イズライリの地に往け、蓋嬰兒の生命を索むる者は死せり。彼起きて、嬰兒と其母とを攜えてイズライリの地に來れり。唯アルヘライが其父イロドに繼ぎて、イウデヤに王たりと聞きて、彼處に往くことを懼れ、乃夢の内に默示を得て、ガリレヤの境に往き、ナザレトと名づくる邑に來りて、此に居りたり、諸預言者を以て、彼はナゾレイと稱えられんと、言われし事に應うを致す。

＊＊

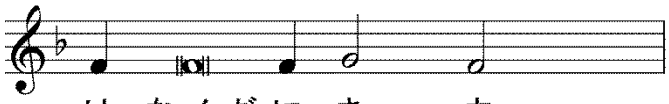
（比較用　口語訳）博士たちが帰って行ったのち、見よ、主の使が夢でヨセフに現れて言った、「立って、幼な子とその母を連れて、エジプトに逃げなさい。そして、あなたに知らせるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが幼な子を捜し出して、殺そうとしている」。そこで、ヨセフは立って、夜の間に幼な子とその母とを連れてエジプトへ行き、ヘロデが死ぬまでそこにとどまっていた。それは、主が預言者によって「エジプトからわが子を呼び出した」と言われたことが、成就するためである。さて、ヘロデは博士たちにだまされたと知って、非常に立腹した。そして人々をつかわし、博士たちから確かめた時に基いて、ベツレヘムとその附近の地方とにいる二歳以下の男の子を、ことごとく殺した。こうして、預言者エレミヤによって言われたことが、成就したのである。「叫び泣く大いなる悲しみの声がラマで聞えた。ラケルはその子らのためになげいた。子らがもはやいないので、慰められることさえ願わなかった」。さて、ヘロデが死んだのち、見よ、主の使がエジプトにいるヨセフに夢で現れて言った、「立って、幼な子とその母を連れて、イスラエルの地に行け。幼な子の命をねらっていた人々は、死んでしまった」。そこでヨセフは立って、幼な子とその母とを連れて、イスラエルの地に帰った。しかし、アケラオがその父ヘロデに代ってユダヤを治めていると聞いたので、そこへ行くことを恐れた。そして夢でみ告げを受けたので、ガリラヤの地方に退き、 ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちによって、「彼はナザレ人と呼ばれるであろう」と言われたことが、成就するためである。

＊＊

【　福音經（エヴァンゲリオン）　ルカ福音書91端　18章18～27節　】

代禱）睿智

誦經）ルカ傳の聖福音經の讀、



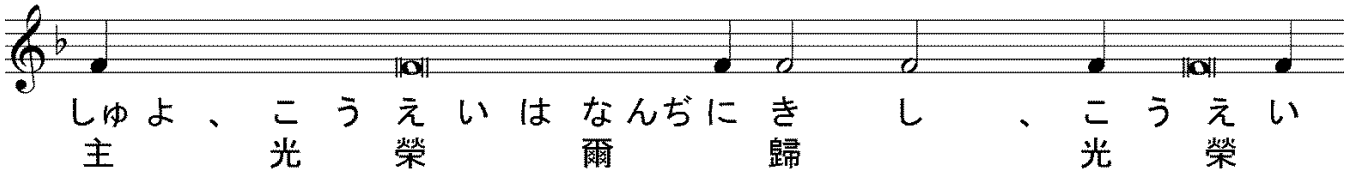
代禱）謹みて聽くべし、

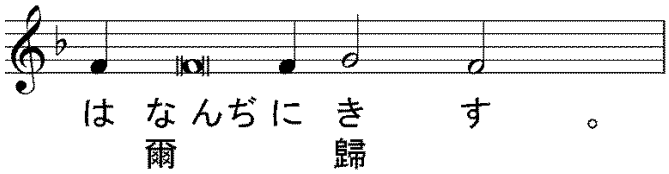
誦經）彼の時或人イイススに就き、彼を試みて、問いて曰えり、善なる師よ、我永遠の生命を嗣がん爲に何を爲すべきか。イイスス彼に謂えり、爾は何ぞ我を善と稱うる、獨神より外に善なる者なし。爾は誡を識れり、淫する母れ、殺す母れ、竊む母れ、妄證する母れ、爾の父母を敬え。彼曰えり、我幼きより皆之を守れり。イイスス之を聞きて、彼に謂えり、爾に猶一の足らざる事あり、悉く爾の所有を售りて、貧者に施せ、然らば財を天に有たん、且來りて我に從え。彼之を聞きて、甚憂いたり、巨に富める故なり。イイスス其甚憂いたるを見て曰えり、富を有つ者の神の國に入るは難き哉。蓋駱駝が針の孔を穿るは、富める者が神の國に入るより易し。之を聞きし者曰えり、然らば誰か能く救われん。彼曰えり、人には能せざる所、神には能すなり。

＊＊

（比較用　口語訳）ある役人がイエスに尋ねた、「よき師よ、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」。イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。いましめはあなたの知っているとおりである、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを敬え』」。すると彼は言った、「それらのことはみな、小さい時から守っております」。イエスはこれを聞いて言われた、「あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。彼はこの言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持であったからである。イエスは彼の様子を見て言われた、「財産のある者が神の国にはいるのはなんとむずかしいことであろう。富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われることができるのですか」と尋ねると、イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはできる」。

＊＊





※聖体礼儀③（金ロイォアン聖体礼儀）へ